

だ い わ ま い

# 大和米

## 【大和米】

大和地域の令和5年水稻の作付け面積は約806ha、このうちコシヒカリは約304haと最も作付けの多い品種です。山間部の湧き水やため池の清らか水で栽培されます。大和地域の住民の水質への意識は高く、大和地域独自の下水道整備事業制度に取り組み地域全体で水質の向上を図る三原市では唯一の地域です。このため、初夏には蛍の舞う美しい光景が広がります。

また、海から離れた標高300m～500mの山間部に位置しているため、夏は朝と昼の寒暖差が大きく、7月下旬から8月上旬の早朝は青々とした葉に溜った水滴が朝日を反射した田園風景が一面に広がります。

この気温差と穂が実る時期と重なるため、凝縮されたおいしいさを味わえます。



コシヒカリは、1956年（昭和31年）に越前・越中・越後（現在の新潟県ほか）などの「越」と「光」の字から命名登録された品種です。全国で最も多く作付けされています。

## 大和地域でお米はいつから作られていたの？

縄文後期から弥生前期ではないかと推測されています。昭和40年頃に行われた萩原地区の排水工事中に水田遺跡が発見されました。また、その後に行われた同地区の圃場整備事業で未完成の石斧や破片が多く出土し、石斧の製作所であったとも想定されこのことから、人々の生活があったことが考えられます。（大和町誌から抜粋）